

二十七年年度の活動報告

七鹿社会教育協会

平成二十七年度の当協会の事業は例年通り、体験活動・研修旅行・指導者研修の三本立てで実施しました。指導者研修は年が明けた二(三月に実施しているため、これまで報告しておりませんでした、今回はあえて昨年度分を報告し、当協会の事業を理解して頂きたいと思ひます。

ました。なお当日の講師石垣龍子先生は「皇風煎茶禮式」という流派だそうです。この研修については千割静枝氏から感想を寄せて頂きましたのでご紹介します。

◎指導者研修
二十六年度分の指導者研修は二十七年三月五日に七尾市内の料亭「番伊」で、石垣龍子先生をお招きし、「煎茶の作法」というテーマで文字通り煎茶の入れ方・飲み方を学習しました。

私たちはそれまで、抹茶の作法については色々のきまりがあるけれども煎茶はただ「ガブガブ」飲めば良いものだとばかり思っていました。ところが煎茶も色々な作法のきまりがあり、しかもいくつかの流派があつてそれぞれ研鑽をしているということ、とても奥の深いものだという感じを受けました。当日は日頃余り緊張しない生活を送っている会員諸氏も別人のような顔つきで研修を受けてい



●「煎茶の作法について」に参加して

千割静枝
『煎茶の作法』は、お客様のおもてなしや日常生活の中に溶け込んでいますが、何しろ自己流であつて、果たしてこれでいいのかお客様に失礼になつていないのか

と常に考えてばかりいましたので、これは参加しなければと思ひ参加させていただきました。

講師の皇風煎茶禮式総師範石垣龍子先生【雅号 香龍】のお話の中に「日常生活に活かされるお茶、真、人づくりなど美しい調和をとることを大切にしている。」という言葉がありました。

お弟子さんによるお手前では、無駄のない手の動き、美しい所作のもと、正客より順にお菓子が出され、その後、宗家好みのお茶で五人づつ一煎目の茶がお運びされました。お菓子をいただいております。



を飲むものと思つていたが皇風煎茶では一煎目のお茶をいただいた後、お菓子をいただくということ「抹茶」の世界と違いがありました。

二煎目に五人分のお湯が入った急須が廻され、個々にお茶を注ぎ入れていただく作法(一煎目と二煎目のお茶の味わいの違いを味わう)や、お茶碗に蓋をしていた「啜り茶」のいただき方などの作法を教わりました。また、お手前の設えにはお茶碗・茶托・急須・湯沸し・茶入れ・茶合・建水など家庭で使うものより小ぶりの道具で気品を感じ、生活の中で何気なくお茶を入れて飲むという行為を見つめ直していく良い機会となりました。これからの暮らしの中にお教えいただいた作法を一つでも取り入れて行けたらと思ひます。また、皇風煎茶禮式には季節にあつたお茶の楽しみ方が色々あるとお聞きいたしましたので、また研修の機会があれば是非参加したいと思ひます。

平成二十六年度の指導者研修は以上の通りですが、指導者研修の内容は、研修を受けた方が、自分の団体へ帰って団体に還元できるようなものを選んで実施していただきます。次に二十七年度の事業を報告します。今年度は日程的に体験活動と研修旅行を別々に実施することが困難になつたため、二つを一緒

にし、指導者研修を年が明けてから実施するという事にしました。従って今回報告できるのは、一回の事業のみということになります。どうかご容赦ください。

◎体験活動・研修旅行

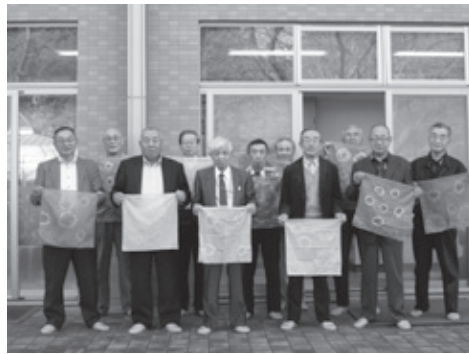
平成二十七年年度の体験活動・研修旅行は十一月十一日に白山市の県立青年の家・同林業試験場・同ふれあい昆虫館等の社会教育施設を見学し、同所で体験学習を実施しました。当協会ではこれまで主に能登地方を中心に見学・体験学習を実施してきましたが、久しぶりに加賀地方の社会教育施設を訪問し、能登地方と合わせて、石川県の教育施設の多彩さ、充実ぶりに今更ながら感激しました。これらの施設を利用しながら、本県の社会教育がますます発展し、充実することを願っております。

この事業に参加した大岩為一氏から感想文が寄せられており、その紹介をします。

●「研修報告」

大岩為一
前日までのぐずついた天気から一転して晴の中、総勢十一名を乗せたバスは、深まる秋の中目的地へ向かって出発しました。残念ながら常連の方々の参加が見られず、寂しさもありましたがいつもの方々と久々にお会いできるのが大変楽しく感じました。今回は、白

山青年の家・石川県農林総合研究センター林業試験樹木公園展示館・石川県立白山ふれあい昆虫館の白山市鶴来地区三カ所を研修しました。最初は石川県立青年の家です。ここは、新採教員の時の初任研の会場でした。当時は木造でしたが、リニューアル工事で立派な建物になりました。百〇百六十人が宿泊可能で、一般の方々も五名以上で活動計画があれば利用可能ということでした。



青年の家では体験活動として草木染めに挑戦しました。材料はタマネギの茶色の外皮で、身近にある材料で染めることができます。用意されていた白布に絞り染めの手法で模様を構成します。糸の代わりに輪ゴムと割り箸を利用しました。指導員からは、大人は凝りすぎて良い模様にならないと忠告

されました。タマネギ外皮の煮汁の中に数分つけ込み、その後定着液に一分程浸け、水洗い後乾燥して終了です。定着液として、焼きミョウバン液（仕上がりはオレンジ色）、鉄浸染液（深緑色）の二種類です。ハンカチのお土産が完成しました。

次は石川県農林総合センター展示館です。面積二十七haの広大な敷地に芝生広場、郷土の森、針葉広葉樹林、特用樹林、桜椿園、日本庭園等の空間を設置し数百種、数千本の樹木が植えられています。しかしここは、時間の関係で展示館のみの見学でした。館内には、県内の大木老木の紹介と、直径一メートルの木材の年輪に合わせた建築資材用の切り方が展示されていました。ただ製材するのではなく用途に応じて製材することが分かりました。お昼は、鶴来地区金釵宮神社近くの手打ち臼引き蕎麦「草庵」で蕎麦を堪能しました。次は石川県ふれあい昆虫館です。日本海側最大規模の昆虫館です。一階には四面のジオラマ展示と生きた昆虫観察のテラリウム。放蝶温室「チョウの園」、世界の昆虫標本の展示また二階にも石川県の昆虫展示コーナーがあります。今回の参加者の中には、来館された方も多くいましたが、ゆつくりと展示物を見て回ると新たな発見もありました。季節的には昆虫の動きが鈍くなる時期ですが、一生

懸命生きている姿を見せてくれていました。昆虫館の目玉は「チョウの園」一年中常夏の楽園、中にはシロオビアゲハ、オオゴママダラ（金色のサナギが有名）リュウキュウアサギマダラ、カバタテハなど約十種一千匹のチョウが飛び回っています。見学者の身体に止まってくれます。



夏ではカブトムシの放し飼いやペント等も催され、子ども達の人気の場所となっています。私の新しい発見は蝶の標本の見方でした。角度を変えてみると、華やかな色から一転地味な色へと変化しました。今回も参加者の方々は十分楽しめた研修旅行になりました。

なお、本研修には石川県教委生涯学習課から適切なアドバイスも頂きました。紹介し感謝の意を表します。